

大子町中心市街地活性化 基本構想

概要版

平成 26 年 1 月

大子町

計画の策定にあたって

常陸大子駅周辺は、周囲を山地で囲まれるといった自然条件の下で、周辺の町村を取り込みながら物資の流通の中心地としての機能を果たし、主に商業機能やサービス機能を提供する中心市街地の役割を担ってきました。しかし、進学や職を求めての若者の流出や少子化などによって人口減少が顕著に現れ、中心市街地の活力が低下し、拠点性を失いつつあります。

一方、近年の大子町では、袋田の滝や温泉、特産品などの地場産業や様々な観光レクリエーション資源を活かし、交流人口の増加を図ることによる活力あるまちづくりに取り組んでいます。

このようなことから、中心市街地においては、地域住民の日常生活の利便性を確保する生活拠点の役割に、まちなか観光拠点の要素を加えることで、生活者と来訪者の交流から生まれる、まちなかの活性化を図るため、生活・観光・交流を柱としたまちづくりへの転換を目指し、中心市街地におけるまちづくりと、その核となる拠点の構想を策定するものです。

まちづくり方針

大子町は、日本三名瀑の1つである袋田の滝をはじめ、県内最高峰の八溝山や男体山の秀峰、久慈川の清流、奥久慈温泉郷などの観光資源が豊富であり、また、蒟蒻、茶、りんご、しゃも等の多くの特産物に恵まれていることにより、年間100万人の観光入込客を数える県内有数の観光地となっています。

また、町民生活に関しては、平成19年6月に読書を通じて心の豊かさを育み、読書の素晴らしさを全国に発信するまちづくりを目指す「読書のまち」宣言を行い、文化の向上に取り組んでいます。

一方で、大子町は、県内で唯一町内全域が過疎地域に指定された自治体であり、住民の高齢化により、医療費の増大による財政負担の増加や、若者流出による後継者不足により産業の衰退や自治会活動の低下などが課題として顕在化しています。

そこで、本計画では、町民の暮らしの中から大子町に合った観光スタイルを検討するとともに、町民の知的好奇心を刺激する場を生み出し、住民同士、住民と観光客が集い交流できる空間の創出をきっかけとした、中心市街地の活性化を目指します。

【基本目標】

「歴史と文化と生業なりわい（＝大子の暮らし）を守り、伝えることで、大子の新しい未来を創造する」

年間100万人の観光客を市街地に誘客

- ・ 地域資源を活かし、市街地観光を促進
- ・ 特産品を活かし、産業や人材を育成

中心市街地活性化

- ・ 産業の活性
- ・ 交流、定住促進
- ・ 歴史文化の継承

住民の暮らしを良好に保つ

- ・ 暮らし方の再発見
- ・ イベント等による住民同士の交流を促進

交流人口を活かし、観光を意識した市街地転換を図ることで過疎化への歯止めの一助とする

中心市街地活性化の基本方針

大子町の中心市街地の活性化を目指すうえで、住民の暮らしを良好に保つことと、観光客に市街地を楽しんでもらうこと、という二つの側面を同時に考えていく事が大切です。また、観光を意識した市街地への転換を実現するためには、人材や産業の育成も重要となります。それらの考え方を基に、まちづくりの基本方針を以下に示します。

まちなかの魅力向上

伝統的な文化歴史資源や景観資源を活かし、“大子らしさ”が香る、まちなかの魅力向上

- ・伝統的な文化歴史を伝える拠点の整備
- ・知的好奇心を刺激する学びの拠点整備
- ・板倉の風情を活かした景観整備
- ・奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備
- ・水路の浄化と水路を活かした景観整備
- ・歴史的建造物を活かしたスポット整備

まちなか商業の活性化

生活の場と観光が一体化した、生活観光の空間づくりによる、もてなしの観光まちづくり

- ・地域食材を活用した6次産業の促進
- ・伝統的な地域産業の掘り起こし
- ・空き店舗を活用した市街地の活性
- ・生活空間を活かした観光スタイルの創出
- ・体験・交流・もてなしの観光促進

まちづくり人材の育成

協働のまちづくりにより、「ひと・こと・もの」が循環する、自立した持続可能なまちづくり

- ・協働のまちづくりによる意識の共有
- ・伝統文化を後世に伝える人材の育成
- ・多様な交流、連携による人材の育成
- ・新たな産業創出を目指した人材の育成

まちづくり拠点

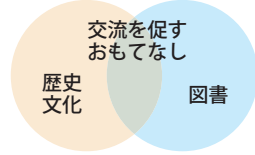
中心市街地の活性化の基本方針とした「住民の暮らしを良好に保つこと」と「観光客が市街地を楽しめること」の実現に向けて、中心市街地のまちづくりは、地域に特に大きな刺激や影響を与える「拠点機能」と「拠点機能間の連携・補完関係」が重要となります。

そこで、既存の拠点である「大子町文化福社会館（まいん）」、「JR常陸大子駅」、「道の駅奥久慈だいで」、さらに「町有地を活用した新たな拠点」を加えて、まちづくりの拠点とします。

町有地を活用した新たな交流拠点基本構想図

■文化交流拠点のコンセプト

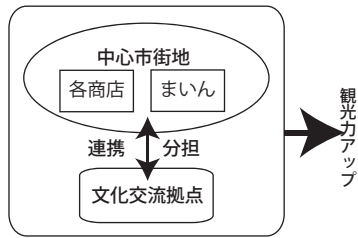
文化交流拠点は、大子町の住民同士や住民と来訪者の交流を促すために、「歴史・文化」や「図書」をキーワードにした機能を配置する。



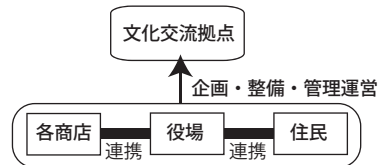
生活者と来訪者の知的好奇心を満たす【学びの拠点】

■整備の進め方と管理運営

中心市街地活性化の拠点施設とするため、既存の各商店やまいんの連携や機能の再整理を図ることで、まち全体の活性化を目指す。



また、完成後の利用方針や運営・管理などを含め、町民との意見交換会等を実施し、相互理解を深めながら、文化交流施設の整備を進めることが求められる。



■配置平面図

